

81.8.1 日

屋根の上のヴァイオリン弾き

史上初の「六ヶ月連続上演」

森繁久弥主演のミュージカル「屋根の上のヴァイオリン弾き」が、日本商業演劇史上初めて六ヶ月連続上演を行うことになった。

これは、つい先ごろ五百回上演を達成した宮城県民会館（仙台）で、東宝の松岡功社長が発表したもの。来年五月から十月まで、東京・帝劇の舞台にかけられる。

初演は四十二年九月。いまやミュージカル全盛時代だが、当時は試行錯誤を繰り返していた時期。高度経済成長期から、七〇年安保の騒然たる時代を経て、低成長時代へと移り変わったが、その間、何度も再

500回達成

公演で発表

森繁は「まだまだ」



▲ 500回達成で観客の拍手に応える森繁（宮城県民会館で）

演、地方巡業を行いながら、数々の上演記録を塗り変えてきた。

「一口に五百回というが、十

四年間で北海道から沖縄まで歩き回り、しかもすべてオーケストラによる生演奏。興行的な成功をおさめながら上演し続けてきたのですから、大変な事業だったわけです。一観客に立ち戻って拍手を送りたい気持ちです」

と帝劇の大河内豪支配人。六ヶ月公演に対するいくつかの不安材料を差し引いても、期待するところは大きい、という。この作品に必要な俳優は四十人前後だが、このうち全公演に参加したのは十一人。もちろん森繁もそのひとりで、主役のテ

ヴィエというユダヤ人一家の父親を演じ続けてきた。「はい、は五百回だからとうとうといふことは考えません。やり続けていれば（数字は）どんどん増えていくわけです。五百といえは五十の十倍、百の五倍、二百五十の二倍、しかし千の二分の一、ありませんか。まだまだですよ」

と語る森繁だが、五百回記念公演のカラファン・コールでアシのよつな拍手に包まれると、さすがに感極まり、目頭を両手で抱えるという一幕も。

他に益田喜順、賀原夏子もフル出演メンバーだが「こうなったら最後まで付き合いたいもの」

と口をこうこえた。なお「六ヶ月公演」の詳細等については後日発表される。